

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3561560号

(P3561560)

(45) 発行日 平成16年9月2日(2004.9.2)

(24) 登録日 平成16年6月4日(2004.6.4)

(51) Int.Cl.⁷

A45D 33/00

F I

A45D 33/00 615B

請求項の数 1 (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願平7-203521	(73) 特許権者	000001959
(22) 出願日	平成7年8月9日(1995.8.9)		株式会社資生堂
(65) 公開番号	特開平9-47319		東京都中央区銀座7丁目5番5号
(43) 公開日	平成9年2月18日(1997.2.18)	(73) 特許権者	000160223
審査請求日	平成13年9月20日(2001.9.20)		吉田プラ工業株式会社
			東京都墨田区立花5丁目29番10号
		(74) 代理人	100071283
			弁理士 一色 健輔
		(74) 代理人	100084906
			弁理士 原島 典孝
		(74) 代理人	100094042
			弁理士 鈴木 知
		(72) 発明者	石居 宏之
			東京都中央区銀座7-5-5 株式会社資
			生堂内
最終頁に続く			

(54) 【発明の名称】 化粧料容器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

容器本体と、この容器本体に開閉自在に蝶着される蓋体とを備え、容器本体内に化粧皿を収納するようにした化粧料容器において、
前記容器本体内を、隔壁を介して2つの収納部に隔成し、その一方を化粧皿収納部として形成する一方、前記化粧皿の外周に係合溝を形成し、前記隔壁の化粧皿収納部側内面に、前記化粧皿の係合溝に係合可能な第1係合突起を形成すると共に、前記隔壁に対向する化粧皿収納部内面に、上下方向に延びる縦スリットを両側に形成して下端を自由端とする前記第1係合突起に対応する複数の爪を形成し、これら爪の下端部内面に、前記化粧皿の係合溝に係合可能な第2係合突起を形成すると共に、これら爪間の容器本体内面を、下端を自由端として前記爪より大きなバネ力をもって可撓可能な保持壁とし、この保持壁の内面に、前記第2係合突起より少ない突出量に設定されて前記化粧皿を第1係合突起方向に押圧する凸部を形成したことを特徴とする化粧料容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本発明は、化粧皿を交換可能とした化粧料容器に関する。

【0002】

【従来技術】

この種の化粧料容器としては実開昭62-8801号公報に開示されるものが存在し、化

粧料を詰めた化粧皿を容器本体に対して脱着可能として、1つのコンパクトで複数種類の化粧料の交換が可能となっている。ところで、前記コンパクトは脱着しようとする化粧皿の上端周縁部に鏝部を形成すると共に、下端周縁部に突起を形成してあり、化粧皿の一侧に設けた突起を容器本体の中央部に形成した仕切りから突設する突起に係合すると共に、化粧皿の他側に設けた突起をかぎ状中枠の突出部分下側に係合するようになっている。また、前記化粧皿はばね板により化粧皿の一侧の前記突起と前記仕切りの突起とが係合保持される方向に押圧付勢される。

【0003】

そして、化粧皿を装着する場合はこの化粧皿を斜めにして、かぎ状中枠の突出部分の下側に化粧皿他側の突起を潜り込ませた後、化粧皿一侧の突起を仕切りの突起に係合させるようになっている。一方、前記化粧皿を離脱させるには前記装着動作とは逆に、ばね板の付勢力に抗して化粧皿を移動して化粧皿一侧の突起と仕切りの突起とを外した後、この化粧皿を斜めにしてかぎ状中枠の突出部分から化粧皿他側の突起を抜取るようになっている。

10

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、かかる従来の化粧皿を脱着可能としたコンパクトにあっては、化粧皿一侧の突起がかぎ状中枠の突出部分に係合されるようになっているため、この化粧皿の脱着時に化粧皿自体を斜めにする必要がある。このため、化粧皿の脱着の仕方が分かりずらく、取扱いが不便であるという課題があった。

【0005】

20

そこで、本発明はかかる従来の課題に鑑みて、化粧皿を斜めにすることなく脱着を簡単に行うことができる化粧料容器を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】

かかる目的を達成するために本発明は、容器本体と、この容器本体に開閉自在に蝶着される蓋体とを備え、容器本体内に化粧皿を収納するようにした化粧料容器において、前記容器本体内部を、隔壁を介して2つの収納部に隔成し、その一方を化粧皿収納部として形成する一方、前記化粧皿の外周に係合溝を形成し、前記隔壁の化粧皿収納部側内面に、前記化粧皿に係合溝に係合可能な第1係合突起を形成すると共に、前記隔壁に対向する化粧皿収納部内面に、上下方向に延びる縦スリットを両側に形成して下端を自由端とする前記第1係合突起に対応する複数の爪を形成し、これら爪の下端部内面に、前記化粧皿に係合溝に係合可能な第2係合突起を形成すると共に、これら爪間の容器本体内部面を、下端を自由端として前記爪より大きなバネ力をもって可撓可能な保持壁とし、この保持壁の内面に、前記第2係合突起より少ない突出量に設定されて前記化粧皿を第1係合突起方向に押圧する凸部を形成したことを特徴とする。

30

【0007】

【作用】

以上の構成により本発明の化粧料容器にあっては、化粧皿は2つの収納部に隔成した一方の化粧皿収納部内に嵌合されるようになっており、この化粧皿を上方から化粧皿収納部に挿入することにより、化粧皿の下端部で爪を押し開きつつこの化粧皿に係合溝が、隔壁に形成した第1係合突起に係合すると共に、前記爪に形成した第2係合突起が係合溝に位置した時点で爪が復帰してこの第2係合突起が係合溝に係合する。このとき、前記爪間の保持壁に形成した凸部で化粧皿が第1係合突起方向に押圧されて、この第1係合突起と前記係合溝との係合状態が保持されると共に、前記凸部は前記第2係合突起より少ない突出量に設定されているので、この第2係合突起と係合溝との係合状態も保持され、化粧皿の離脱が防止される。従って、化粧皿を上方から化粧皿収納部に単に押し込むことによって、係合溝が第1、第2係合突起にそれぞれ係合されて化粧皿の装着が可能となり、化粧皿の装着作業を著しく簡単に行うことができる。次に、前記化粧皿を取り外す際には、化粧皿を押すことで前記凸部を押圧して保持壁を撓ませつつ第1係合突起から係合溝を離脱させ、そして、化粧皿の第1係合突起側が上方となるように斜めにしてこの化粧皿を上方に持

40

50

ち上げて第2係合突起から係合溝を離脱する。

【0008】

【実施例】

以下、本発明の実施例を添付図面を参照して詳細に説明する。図1から図5は本発明にかかる化粧料容器の一実施例を示し、図1は化粧皿を取り出して蓋体を開放した状態の化粧料容器の斜視図、図2は蓋体を開放した化粧料容器の平面図、図3は蓋体を閉止した状態の図2中A-A線に対応する断面図、図4は化粧皿の装着状態を示す拡大要部断面図、図5は化粧皿を離脱する状態を示す拡大要部断面図である。

【0009】

即ち、本実施例にかかる化粧料容器10は、図1、図2に示すように容器本体12の後方端部に蓋体14が蝶番16を介して開閉可能に蝶着される。前記容器本体12内は略中央部に設けられる隔壁18によって左右2つの収納部に隔成され、一方(図中左方)の収納部が化粧皿収納部20として形成され、かつ、他方(図中右方)の収納部をパフ等を入れる小物入れ22として用いる。そして、前記化粧皿収納部20には、前記容器本体12とは別体に形成される図1に示した化粧皿24が脱着可能に収納される。

【0010】

前記化粧皿24は前記化粧皿収納部20の内周形状に沿って矩形状に形成され、その内部に化粧料26が充填されると共に、この化粧皿24の下端部外周には係合溝24aが形成されている。一方、前記隔壁18の化粧皿収納部20側の内面20aには、前記化粧皿24の係合溝24aに係合可能な一對の第1係合突起28、28が形成される。また、前記隔壁18に対向する化粧皿収納部20の内面20bに、前記第1係合突起28、28に対向して一對の爪30、30を形成する。これら爪30、30は前記内面20bの下端部を分離して上下方向に延びる縦スリット30aを両側に形成し、上端部の付け根部分を中心として可撓可能となっている。そして、前記爪30、30の下端部内面には前記化粧皿24の係合溝24aに係合可能な第2係合突起32、32が形成される。尚、前記隔壁18の中央部には装着した化粧皿24を押圧するための凹設部18aが形成されている。

【0011】

また、前記一對の爪30、30間の容器本体内面20aの下端部を分離して保持壁34が形成される。この保持壁34は下端部を自由端として上端部の付け根部分を中心として可撓可能となる。このとき、図3に示すように前記保持壁34の幅W1を前記爪30の幅W2より広くして、保持壁34のバネ力が爪30より大きく設定される。前記保持壁34の内面には前記化粧皿24の装着状態でこの化粧皿24を前記第1係合突起28方向に押圧する一對の凸部36が形成される。このとき、前記凸部36の突出量は前記第2係合突起32より少なく設定され、この凸部36で化粧皿24を押圧した状態で第2係合突起32が化粧皿24の係合溝24aに係合した状態が保持される。

【0012】

尚、本実施例の化粧料容器10は蓋体14の裏面14aにバニティミラー38が取付けられると共に、この蓋体14の先端部中央に突設したフック40が、図3に示すように容器本体12の前端部中央に形成した突起42に係止されることにより、蓋体12の閉止状態が保持されるようになっている。また、蓋体12を開放する際には、前記フック40を押し上げて突起42との係止を解除するようになっている。

【0013】

以上の構成により本実施例の化粧料容器にあっては、化粧皿24を装着する際には、この化粧皿24を上方から化粧皿収納部20に挿入し、化粧皿24の下端部が第2係合突起32に当接した状態から更に押し込むことにより、図4に示すように一對の爪30、30を押し開きつつこの化粧皿24の係合溝24aが、隔壁18に形成した一對の第1係合突起28、28に係合すると共に、前記爪30、30に形成した第2係合突起32、32が係合溝24aに位置した時点で、爪30、30が復帰してこの第2係合突起32、32が係合溝24aに係合する。このように第1、第2係合突起28、30が係合溝24aに係合されることにより、化粧皿24の離脱が防止されて装着が完了される。このとき、前記爪

30, 30間の保持壁34に形成した凸部36, 36で化粧皿24が第1係合突起28, 28方向に押圧されて、この第1係合突起28, 28と前記係合溝24aとの係合状態が保持される。また、前記凸部36, 36は前記第2係合突起32, 32より少ない突出量に設定されているので、この第2係合突起32, 32と係合溝24aとの係合状態も保持され、化粧皿の離脱が確実に防止される。従って、本実施例では化粧皿24を上方から化粧皿収納部20に単に押し込むことによって、係合溝24aが第1, 第2係合突起28, 32にそれぞれ係合されて化粧皿24の装着が可能となり、化粧皿の装著作業を著しく簡単に行うことができる。

【0014】

次に、前記化粧皿24を化粧皿収納部20から取り外す際には、隔壁18の凹設部18a 10から指を差し込んで化粧皿24を爪30, 30の配置方向に押圧して移動し、この化粧皿24で前記凸部32, 32を押圧して保持壁34を撓ませつつ第1係合突起28, 28から係合溝24aを離脱させ、そして、化粧皿24の第1係合突起28, 28側が上方となるように斜めにしてこの化粧皿24を上方に持ち上げて、第2係合突起32から係合溝24aを離脱するようになっている。

【0015】

図6は他の実施例を示し、前記実施例と同一構成部分に同一符号を付して重複する説明を省略して述べる。尚、図6は図3に対応する断面図である。

【0016】

即ち、この実施例は化粧皿収納部20内に、この化粧皿収納部20の内周を覆う中枠50 20を装着し、この中枠50に爪30, 30および保持壁34を形成してある。尚、図示は省略したが第1係合突起28も前記中枠50に形成される。

【0017】

前記中枠50は上端周縁部に鏝部50aが形成されると共に、外側周縁部に係止凸部50bが形成される。そして、前記鏝部50aが化粧皿収納部20の上端に当接されると共に、前記係止凸部50bが化粧皿収納部20の内周に形成した凹部52に嵌合係止されて中枠50の抜止めが行われる。

【0018】

従って、この実施例にあっても前記実施例と同様に化粧皿24の脱着操作を簡単に行うことができるのは勿論のこと、前記爪30および前記保持壁34が中枠50に形成されること 30により、容器本体12とこれら爪30および保持壁34との材質を変えることができる。このため、容器本体12の材質にかかわらず爪30および保持壁34のパネ力を任意に設定することができる。

【0019】

【発明の効果】

以上説明したように本発明の化粧料容器にあっては、容器本体内を隔壁を介して隔成した一方の化粧皿収納部内に化粧皿が嵌合されるようになっており、前記化粧皿の外周に係合溝を形成し、前記隔壁の化粧皿収納部側内面に前記化粧皿の係合溝に係合可能な第1係合突起を形成すると共に、前記隔壁に対向する化粧皿収納部内面に、上下方向に延びる縦スリットを両側に形成して下端を自由端とする前記第1係合突起に対応する複数の爪を形成 40し、これら爪の下端部内面に前記化粧皿の係合溝に係合可能な第2係合突起を形成したので、化粧皿を上方から化粧皿収納部に挿入することにより、化粧皿の下端部でこれら爪を押し開きつつこの化粧皿の係合溝が前記第1係合突起に係合すると共に、前記第2係合突起が係合溝に位置した時点で爪が復帰してこの第2係合突起が係合溝に係合して化粧皿を装着することができる。また、前記爪間の容器本体内部面を、下端を自由端として前記爪より大きなパネ力をもって可撓可能な保持壁とし、かつこの保持壁の内面に、前記第2係合突起より少ない突出量に設定されて前記化粧皿を第1係合突起方向に押圧する凸部を形成したので、前記化粧皿を装着した際にこの凸部で化粧皿を第1係合突起方向に押圧して、この第1係合突起と前記係合溝との係合状態を保持することができると共に、前記凸部は前記第2係合突起より少ない突出量に設定されているので、この第2係合突起と係合溝と 50

の係合状態も保持されて化粧皿の離脱を確実に防止することができる。従って、化粧皿を上方から化粧皿収納部に単に押し込むことによって、係合溝が第1、第2係合突起にそれぞれ係合されて化粧皿の装着が可能となり、化粧皿の装着作業を著しく簡単に行うことができる。一方、前記化粧皿を取り外す際には、化粧皿を押すことで前記凸部を押圧して保持壁を撓ませつつ第1係合突起から係合溝を離脱させ、そして、化粧皿の第1係合突起側が上方となるように斜めにしてこの化粧皿を上方に持ち上げて第2係合突起から係合溝を離脱することができるため、化粧皿の取り外しも簡単に行うことができるという優れた効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示す化粧皿を取り出して蓋体を開放した状態の化粧料容器の斜視図である。

【図2】本発明の一実施例を示す蓋体を開放した化粧料容器の平面図である。

【図3】本発明の一実施例を示す蓋体を閉止した状態の図2中A-A線に対応する断面図である。

【図4】本発明の一実施例を示す化粧皿の装着状態の拡大要部断面図である。

【図5】本発明の一実施例を示す化粧皿を離脱する状態の拡大要部断面図である。

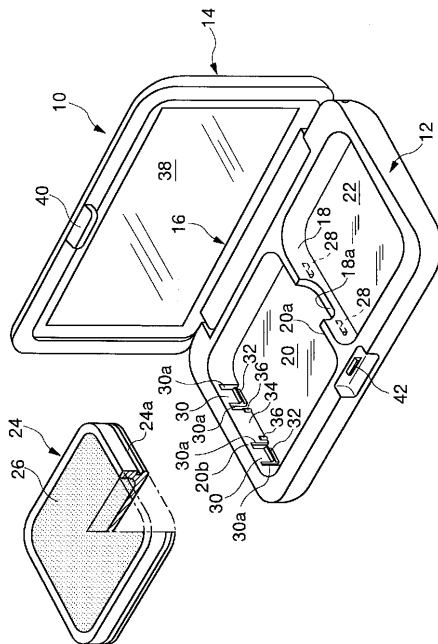
【図6】本発明の他の実施例を示す図3に対応する断面図である。

【符号の説明】

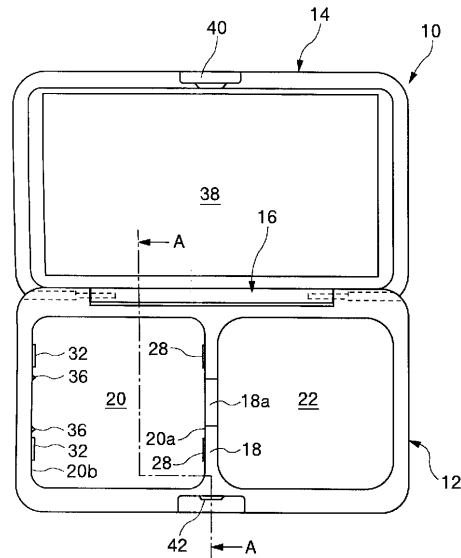
10 化粧料容器
14 蓋体
18 隔壁
24 化粧皿
26 化粧料
30 爪
34 保持壁

12 容器本体
16 蝶番
20 化粧皿収納部
24a 係合溝
28 第1係合突起
32 第2係合突起
36 凸部

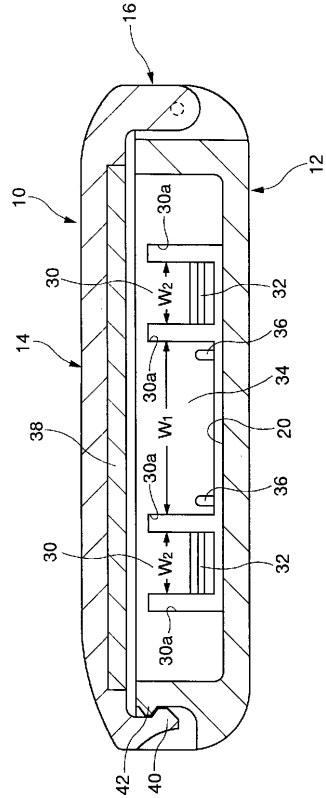
【図1】



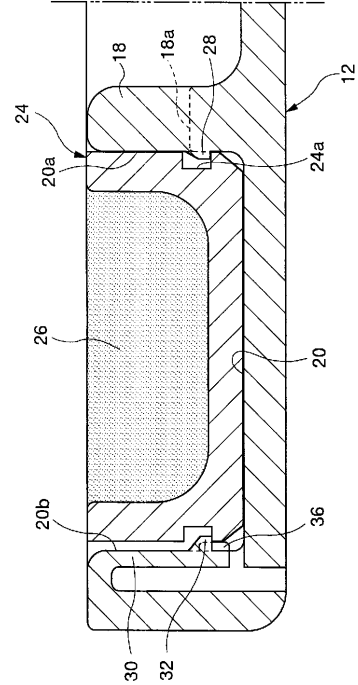
【図2】



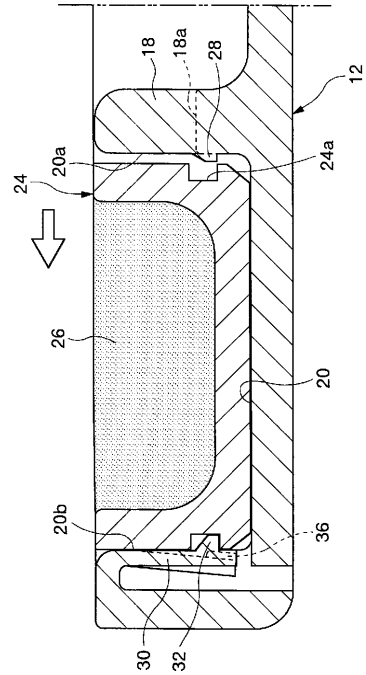
【図 3】



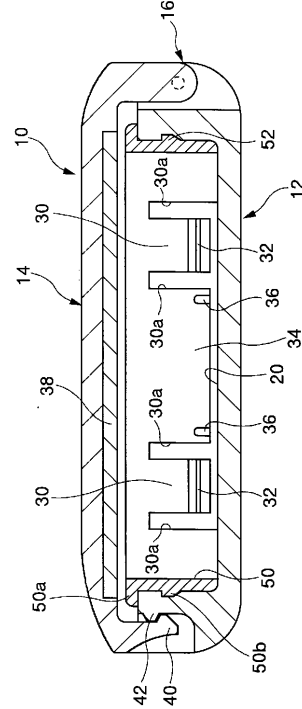
【図 4】



【図 5】



【図 6】



フロントページの続き

- (72)発明者 大島 健一
大阪府大阪市東淀川区小松2-17-45 大阪資生堂株式会社内
- (72)発明者 柚原 幸知
東京都墨田区立花5丁目29番10号 吉田工業株式会社内

審査官 岩田 洋一

- (56)参考文献 実開平06-081403 (JP, U)
実開平06-003207 (JP, U)
実開昭60-155412 (JP, U)
実開平02-082208 (JP, U)

- (58)調査した分野(Int.Cl.⁷, DB名)
A45D 33/00 615